

いきものの記

Vol.125 2024.11.5

1年1組 千葉 美文
(科学研部生物化学班・鳥研究)

記念すべき西表島野鳥記事第2号目は**ズグロミゾゴイ**について書こう。皆さんはミゾゴイという鳥をご存知だろうか。多くの人の答えは恐らく否だろう。ミゾゴイとは日本国内のみの深い森林の沢付近などで繁殖する夏鳥で**国際自然保護連合（IUCN）と環境省の両方から絶滅危惧種の評価を受けているド珍鳥だ**。数年前になぜか新宿駅前に現れてかなりのニュースになった鳥でもある。そのミゾゴイの近縁種にあたるのが今回書くズグロミゾゴイである。

研修2日目、石垣島にて朝の散歩でバナナ公園を訪れた時、まず最初に**クジャクとの出会いに驚いた**。メンバーみんなで朝食をいただいた後、暖哲先輩と私の鳥班チームは鳥を探しに出かけた。途中で戦死した日本軍の慰霊碑があったのでそこに手を合わせた後、ふと横を向いたらそこにクジャクがいたのである。「石垣島にクジャク!？」と思うかもしれないが、もちろん自然分布ではなく、**飼われていたインドクジャクが逃げ出して野生化しているのだ**。クジャクがいると事前には知っていたものの、いざ出会ってみると、あの刺激的な尾羽が生えていない時期なのにも関わらず、その**体長と存在感の大きさに腰が抜けかけた**。クジャクは2羽いて両方ともオスだった。我々のことを特に警戒はせず、何かを食べながらのそのそと歩いて森の中に消えていった。その後、クジャクで抜けかけた腰を直しながら林道に入っていくと、全然鳥の声が聞こえず、気配もなく、静かな森が続いていた。しばらく歩くと、**コサギくらいの茶色い鳥がバサッと上に飛び上がった**。「なんだあれー!?ムラサキサギかーっ!?」と思ったが、その鳥の正体はムラサキサギではなく、**ズグロミゾゴイ**だった。「スゲーーッ!!」と小声で叫びながら、先輩と私は夢中で連写をしたが、**全然動かないので同じ写真が生産されていくだけであった**。動画を撮ってもほぼ静止画のようなもので、撮っている意味がなかった。それくらい静止していて、動じていなかった。その不動の姿勢は**森の鎮守たる雰囲気**を感じさせた。まさに**神の如き鳥**と言っていいただろう。ちなみにズグロミゾゴイのゴイは近縁種のゴイサギという鳥のゴイなのだが、そのゴイは**朝廷の官位の「五位」であり、醍醐天皇から与えられた物で、国司・大名相当の位である**。実際にズグロミゾゴイは、**我々一般人より偉いのである**。神の如き不動の振る舞いと、与えられた位の格、自動的に脳内でズグロミゾゴイに合成された神聖な御光を目の当たりにして落ち着きを取り戻し、じっくり観察した。ぱっと見は冒頭で述べたミゾゴイ（ミゾゴイは以前水元公園で観察済み）にそっくりだが、やはりミゾゴイと比べると**目の周りの水色の部分がかなり印象的だ**。あとは、名前の通り**頭頂部が黒いのが特徴**だろう。その後もズグロミゾゴイは全然動こうとしなかったが、流石に移動時間が迫ってきたため、ズグロミゾゴイに手を振って戻り始めた。しかし**本当に大変なのはここからだった**。移動時間が迫る中、**リュウキュウアカショウビンの声**がかなり近くで聞こえ始めたのだ。「今じゃねえー!!」と歓喜の声を心の中であげて先輩と共にかなりギリギリまで探したが、私は枝の間を移動する途中の一瞬、先輩は飛び立って奥に消えていく一瞬しか見られなかった。そして、ズグロミゾゴイを見られた嬉しさとアカショウビンを見られなかった並々ならぬ悔しさと共に我々はバナナ公園を後にした。

西表島特集⑧ 森の鎮守・神の鳥 ズグロミゾゴイ



石垣島のズグロミゾゴイ 写真では伝わらないと思うが、本物を見ると神聖な御光が見えてくる（気がする）。



ミゾゴイ（水元公園で撮影）目元がズグロミゾゴイと違い黄色なのがわかる。この写真では羽の色の違いは光の加減で違うように見えるが、ズグロミゾゴイの方が少し橙色っぽいくらいで、実はほとんど変わらない。



インドクジャク
非繁殖期だったようで最も特徴的な尾羽がなかった。しかしそれでも体長と存在感はとても大きかった。